

IIDA



リニア駅、焼肉、りんごに人形劇。自然豊かな飯田で、個性が輝く舞台のはじまりです。

ステージ

飯田市

飯田市は

個性が輝く舞台



雄大なアルプスの山々に囲まれて
あまい香りをかくわせながら
りんごが揺れる並木道。
星降る時間も、緑いっぱい景色も、
ソウルフードの焼肉も
いろんな「主役」が待っています。
まちを彩るたくさんさんの魅力が結び合い
あなたともつながるはず。
さあ、とっておきのひとときを。

PROGRAM

第1幕	リニアのまち	4
第2幕	エコライフ	6
第3幕	ものづくり	8
飯田のいいはなし		10
第4幕	自然	12
第5幕	おもてなし	14
飯田のイイ!		16
第6幕	食	18
第7幕	農ある暮らし	20
みんなでつくる飯田マップ		22

公式instagramアカウント
@iida_promotion

飯田の映え写真公開中!
舞台裏も!



冬は薪ストーブで暖かい
エコがあふれる南信州の
暮らし

page 6

田舎暮らしへの憧れが実現
副業も展開中

page 8

遠山郷の魅力を伝え
移住のきっかけにつなげたい

page 12

天龍峡の活性化に取り組み
リピーターを増やしたい

page 14

人とのつながりを大切に
「結い」の文化を守りたい

page 18

陽をたくさん浴びた
りんごに囲まれて、充実の毎日

page 20

全国・世界とつながり
誰もが輝く舞台に

リニア開通で夢が現実に
高まる期待感

リニア中央新幹線は、新幹線より遙かに速い時速500kmで走り、東京・名古屋・大阪の3大都市を約1時間で結びます。そんなリニアの長野県の駅が、飯田市に設置されます。

これまで東京・大阪から約4時間、名古屋から約2時間かかっていた移動が大幅に短縮され、東京都心(品川)からの所要時間は約45分、名古屋からは約25分で行き来できるように。都市圏からでも手軽に飯田市観光に来ていただけます。りんご・梨・桃などのフルーツ狩り。「日本一の焼肉のまち」で南信州牛、ブランド豚、マトンに舌鼓。雄大

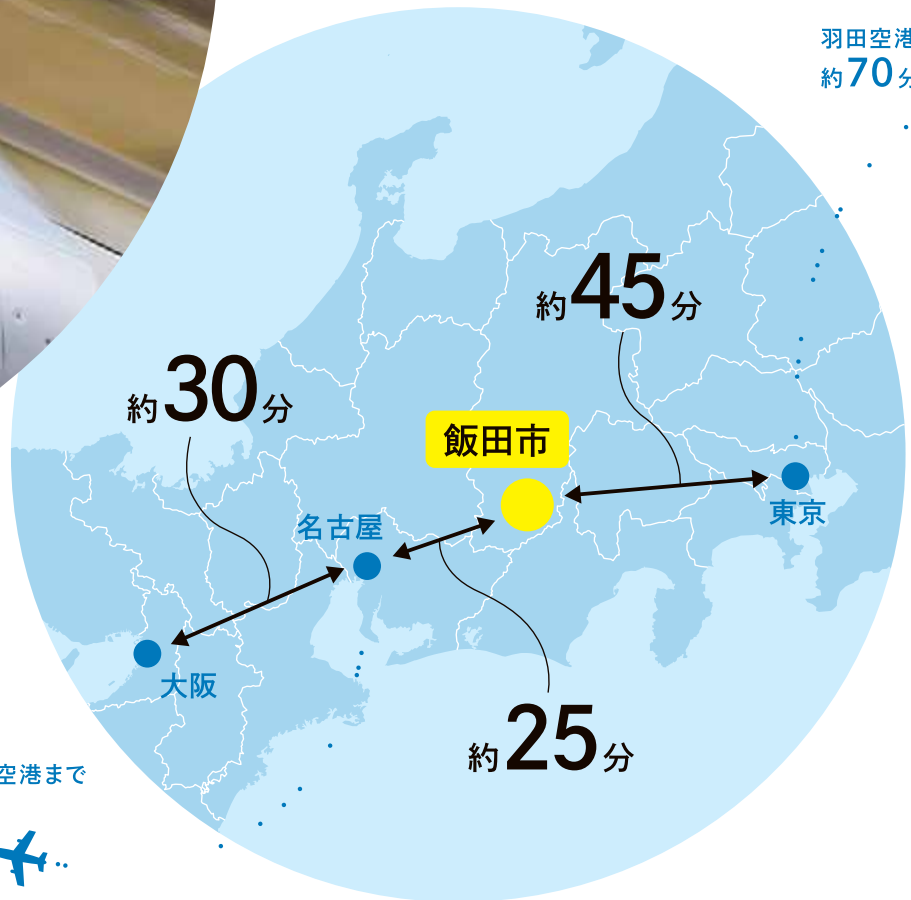
な山麓でのキャンプや天竜川ラフティングなどのアウトドア体験。「日本のチロル」と呼ばれる天空の秘境・下栗の里への訪問。南信州の風土や、それに育まれた伝統文化に素早くアクセスできます。また、都市圏からの通勤・通学も夢ではありません。企業誘致や産

業誘致や産

linear-chuo-shinkansen



提供: JR東海



※イメージ図です。今後、JR東海に要望し、協議・検討していきます。

業振興を進める拠点「エス・バード」も誕生。今後のリモートワーク・テレワーク環境の整備により、2地域居住の選択肢ともなります。観光・生活面で新たな飯田スタイルを提案し続けます。飯田市にとって、リニアは単なる移動手段ではなく、リニア駅もただの通過点ではありません。豊かな自然や文化を五感で味わえる、信州の南の玄関口となります。羽田空港や中部国際空港といった日本の空のエントランスからも1時間程度でアクセスできるため、近い将来、世界とつながる玄関口(ゲートウェイ)になります。



南信州広域連合
産業振興と人材育成の拠点
エス・バード

起業・創業その他の地域の産業を支援するための施設であり、コワーキングスペース、インキュベーター、貸会議室・ホール、工業技術試験施設などが揃っています。入居する産業支援機関には、企業や起業家の支援窓口もあり、ハード・ソフト両面で地域の産業振興と産業人材育成の拠点となっています。



レンタルキッチンスタジオ「AOZORA」



レンタルオフィス



INTERVIEW

◀インタビュー動画はコチラ



大 工である私は、お客様の家を何軒も建ててきた中で、自分の家は木造住宅にしたいと思っていました。設計にあたっては「りんご並木のエコハウス」を参考にし、木材は南信州のものを使っています。自分の家にはムクの木を使いたいという想いがあつたんです。また、薪ストーブを取り入れることも、家を建てる際の条件の一つでした。薪に建築廃材を使えばコスト削減になり、カーボンニュートラルにもつながるんです。冬でも半袖でいられるほど暖かいですし、ゆらゆらとした炎が見えるのも癒しですね。吹き抜け



冬は薪ストーブで暖かい
エコがあふれる南信州の暮らし

中島 敏満さん
博美さん

PROFILE

敏満さんは大工を、博美さんは自宅の隣でヘアサロンを経営。2018年、市の補助金を利用して家を建てられました。



には大きめの窓を入れてもらいました。特に冬、低い位置から日光が差し込んでくるので、太陽熱で部屋が暖まります。エコにもつながっているかなと感じています。飯田市で家を建てるときは「エコハウス」を参考にする人も多はず。アルプスに囲まれた飯田市の風景によく似合う家だと思えます。薪ストーブ、おすすめですよ。

地域ぐるみで実現する

「環境文化都市」

エネルギーの地産地消

太陽光や小水力発電など、市内に普及する再生可能エネルギー。全国に先駆けて、分散型エネルギーシステム「地域マイクログリッド」の構築に取り組んでいます。

「環境に配慮」から、「環境を優先」に

飯田市は、中央アルプスと南アルプスに囲まれ天竜川が流れる自然あふれるまち。平成8年、目指す都市像に「環境文化都市」を掲げ、平成19年に「環境文化都市宣言」、平成21年に「環境モデル都市」に認定、令和3年に「2050年いいたせろカーボンシティ宣言」を行うなど、気候変動対策を重要な取組とする環境のまちづくりを進めています。日本初の大規模な市民ファンドによる市民共同発電事業や、地域主導でエネルギー自治を進める再エネ活用事業など、先進的な環境活動はたびたび話題に。「環境に配慮」する日常の活動を「環境を優先」する段階へ発展させ、市民、事業者、行政など「地域ぐるみ」で「環境文化都市」を目指しています。



メガソーラーいいた



伊賀良井用水
マイクロ水力発電



ペレットストーブ

りんご並木のエコハウス(21世紀環境共生型住宅のモデルとして平成22年建設。)



信南交通EVバス

自然と共生

太陽光をはじめとする再生可能エネルギーの活用や、身近な建物、乗り物などの省エネルギー化が、暮らしの中に当たり前根付いています。



アップルキャブEVタクシー



太陽光発電LED外灯

工

場用の機械を開発設計・製造する省力化機器メーカーの営業職として、既存案件や新規案件の受注・業務の工程管理などを担っています。住宅業界の営業職からの転職だったのですが、異業種の難しさを体感しながらも、日々やりがいを感じています。飯田市は妻との縁があり、第一子を授かったことをきっかけに移住してきました。飯田市は電子部品や家電、自動車部品などの企業が多く、ものづくりのまちだと感じています。大手の企業を筆頭に、さまざまな会社が裾野を広げています。移住と同時に何かにチャレンジしたいという気持ちがあったことから、副業としてスリランカカレーの店を営んでいます。月に2回だけなのですが、古民家カフェなどを間借りして営業しています。転職・移住・田舎暮らし・副業……。さまざまな転機を経てきたライフスタイルですが、多くの人に支えられ、応援していただけて実現できたことなんだと感謝しています。

INTERVIEW

インタビュー動画はコチラ



PROFILE

大阪出身、大学進学を機に上京後、大手住宅メーカーの営業として約11年勤務し、飯田に移住。先端技術を駆使する機械メーカーに勤めながら、副業でカレー屋さんを営業中。

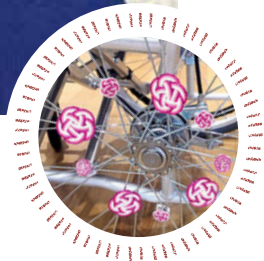
エヌ・エス・エス株式会社
松村 宰周さん

田舎暮らしへの憧れが実現
副業も展開中



RITUAL the crafts / 仲田 慎吾

伝統と革新
両方あるのが
飯田スタイル



Me's / 津田塾大学

水引を車椅子のアクセサリに活用したり、新しい可能性を追求した美術品やジュエリーも制作されています。そんな伝統にとらわれない自由な発想で、無限の可能性が広がります。



産業を支える歴史と水

江戸時代からの茶の湯文化や良質な水があったため、老舗和菓子店や半生菓子づくりが盛ん。半生菓子は全国に流通し、飯田市の産業を支えています。

伝統も革新も受け入れる
多様な産業と飯田市の未来

飯田市は、ものづくりのまち。伝統産業や技術、そして新しい発想の宝庫です。例えば「飯田水引」は、全国



©宮地 工 / Kou Miyaji



人と人を結ぶ行事に欠かせない水引は、元は力士のまげを結う「飯田元結」の技術を受け継いだもの。伝統的手法によって人々を魅了する匠の技です。



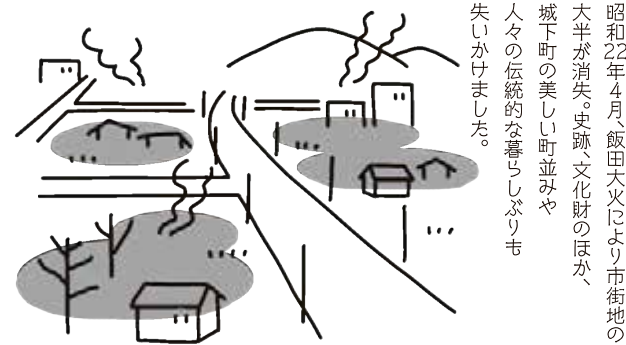
生産量の7割を占めるブランドで、300年以上の歴史があります。その一方、結び方で無限のデザインができる水引は、アート作品や高校生が作るコサージュなど、新たな発想でも注目されています。茶の湯文化から発展した半生菓子は全国シェア4割。航空機分野にも進出するほどの精密加工・電気電子技術も、世界で高い評価を得ています。伝統と革新の両方が、飯田市の産業の未来を担っています。

飯田のいいはなし

飯田市を象徴するあの場所この場所に、語り継がれる物語。
りんご並木に人形劇、春草通りに飯田線…。語り出したらきりが無い。
きっと飯田市がもっと好きになる、「いいはなし」上演です。

第1話

りんごに込められた願い



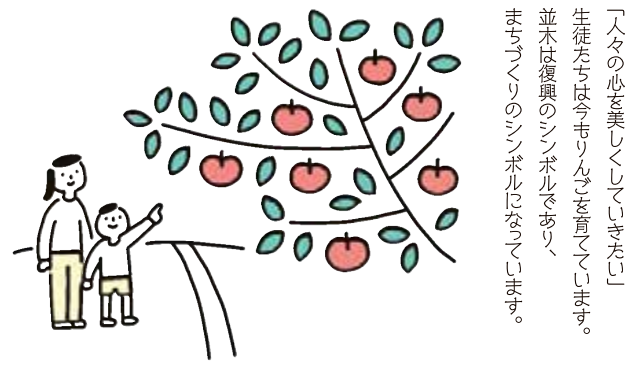
昭和22年4月、飯田大火により市街地の大半が消失。史跡・文化財のほか、城下町の美しい町並みや人々の伝統的な暮らしぶりも失いかけてしまった。



当時の飯田東中学校の校長先生は、北海道を訪れた際に見えた、街路樹が茂る広い道路と町並みの美しさを生徒に話しました。



生徒たちは、新設する防火帯道路にりんごの植樹を提案。その熱意が市を動かし、生徒たちの手で苗木が植えられました。



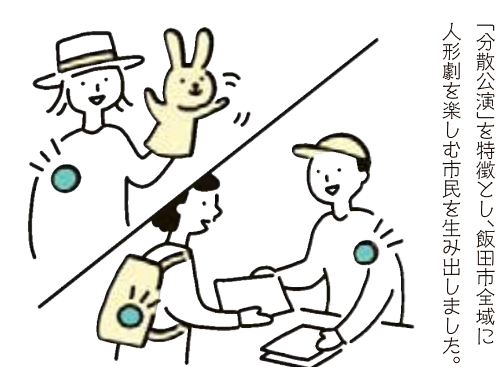
「人々の心を美しくしていきたい」生徒たちは今もりんごを育てています。並木は復興のシンボルであり、まちづくりのシンボルになっています。

第2話

人形劇フェスタ



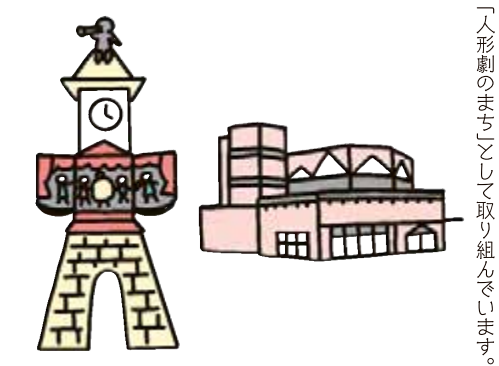
飯田市を中心とする伊那谷南部の地域は、古くから人形浄瑠璃や屋台獅子、農村歌舞伎などの伝統が継承されるまちでした。



昭和54年に人形劇人の全国的な集いを飯田市で開催しよう、劇人側の要請を受け人形劇カーニバルが始まりました。「ツッペン方式」「手弁当」「分散公演」を特徴とし、飯田市全域に人形劇を楽しむ市民を生み出しました。



平成11年、カーニバルから市民主体の「いい大人形劇フェスタ」として生まれ変わりました。全国や海外から多くの劇団や観劇者が集まるお祭りとして40年以上続き、多くの人が人形劇を楽しんでいます。



また、飯田市は人形劇場や人形時計塔、人形浄瑠璃施設・人形美術館など、素晴らしい人形劇や人形美術に触れ、感動できる施設があり、「人形劇のまち」として取り組んでいます。

第3話

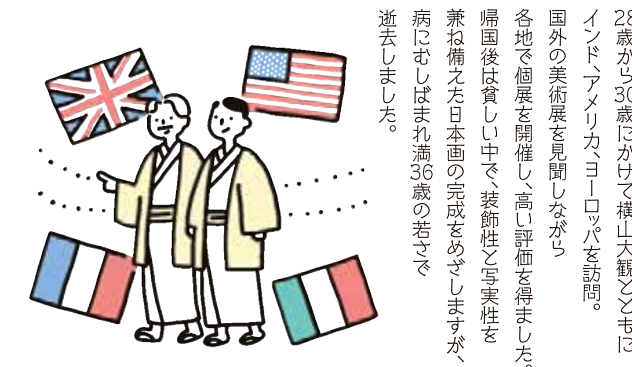
日本画のパイオニア 菱田春草



15歳の年まで故郷の飯田で学んだ後に、16歳のときに東京美術学校に入学。在学中から春草の画才は注目を浴び、卒業制作の「真実と孤児」は賛否両論がある中、校長の岡倉天心の裁定により最優秀となりました。



卒業後は同校の教員に、その後は日本美術院の正員となりました。日本の伝統絵画に西洋絵画の技法を取り込み、新たな日本画のスタイルを模索する中、輪郭線をなくした画法は「朦朧体」と酷評されてしまいました。



28歳から30歳にかけて横山大観とともにインド、アメリカ、ヨーロッパを訪問。国外の美術展を見聞しながら、各地で個展を開催し、高い評価を得ました。帰国後は賞しい中々、装飾性と写実性を兼ね備えた日本画の完成をめざしますが、病にむしばまれ満36歳の若さで逝去しました。



没後、4作品が国の重要文化財に指定されました。平成27年には仲ノ町の生家跡地に「菱田春草生誕地公園」が完成。付近の道路は春草通りと名づけられ市民から愛されています。「菊鷲重等」を所蔵する飯田市美術館は定期的に展示も行われています。

第4話

飯田線と川村カ子ト



飯田の伊原五郎兵衛は、「伊那谷に電車を」と奮闘した父の志を継ぎ、伊那電気鉄道に重役に就任します。反対する住民を説得し、私財を投じて辰野―天竜峡間を開通させました。事業にかける熱い姿は「伊那谷の西郷隆盛」と呼ばれました。



長野側の天竜峡駅と愛知側の三河川合駅間を結ぶため、昭和2年に三信鉄道が設立されました。断崖絶壁を難航する測量、工事は、アイヌの測量士・川村カ子トに託されます。



カ子トはアイヌであることが差別や迫害を受けましたが、熱心な姿勢で周囲の態度を変えていきます。工事監督を務め、約10年をかけた昭和12年、現在の飯田線・辰野―豊橋間が全通します。



飯田線は沿線住民の足となり、今日も走ります。秘境駅として名高い金野駅、千代駅などを巡る。急行「飯田線秘境駅号」も不定期で運行。観光客からも親しまれています。